

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270700313		
法人名	(有)ケアサポート三沢		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	三沢市大字三沢字南山85-1		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○四季の移り変わりを、畑から収穫した採れたての新鮮な食材や多種多様な花で感じ取ることができる。 ○センター方式のシートを活用し、個々の生活をサポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の一日の様子を「一日日記」として書き溜め、家族へ毎月お届けし「暮らしぶりが手に取るようにわかり、安心感がある。」と好評である。 自家農園が隣接しており、管理栄養士によるバランスの良い献立を作成すると共に、季節毎の旬の収穫物も提供している。 また、天気の良い日は、建物の周囲に整備されている遊歩道の散歩や、季節毎の収穫物を目で見て、手で触れ、食事としていただき、全身で季節を感じながら、穏やかな暮らしを保っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を暗唱し、周知・共有化できるように取り組んでいる。	独自の理念を作成し、ホーム内へ掲示している他、パンフレットにも掲載し、広く周知を図っている。また、毎朝理念を唱和することで共有し、利用者が自分らしさを失うことなく、安らぎのある暮らしができるよう、日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等(さつま芋掘会・家族食事)は、町内に回覧板を廻していただき、交流の働きかけを行っている。	定期的に紙芝居や演劇上演のボランティアが来訪している。また、書道講師も指導に訪れたり、保育園の行事を見学する等して、交流を図っている。町内会には回覧板を通じて相互の行事を知らせ合い、参加を促しており、年1回行われる家族出席の食事会には、町内婦人部の手踊りやバンド演奏等、徐々に参加者が増え、ホームそのものへの認識や理解も得られる方向にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習の受け入れを実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議事録を回覧し、職員全員で周知できるようにしている。	2ヶ月1回、運営推進会議を開催しており、事前に議題内容も盛り込んだ開催案内を郵送し、電話で出欠を確認しながら、参加を働きかけている。会議では自己評価・外部評価結果や目標達成計画について説明し、それを基に職場間で話し合った改善点についても報告している。また、メンバーから出された助言等を検討し、今後の運営に活かすように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護福祉課の職員に参加していただき、連携を図っている。	毎回、運営推進会議に市の担当課職員が出席しており、その時々での情報提供や助言を得られるような、良好な関係を築いている。これまでも、利用者家族における問題が発生した際に、行政と連携を図り、解決に至ったことがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中深夜を問わず、強い帰宅願望のある場面では、居室の窓に施錠を行っているが、家族へ説明し、同意を得ている。	外部研修参加後に内部での伝達研修を行っている他、不適切な言動等、気づかないうちに身体拘束に該当する対応をしていないか、日頃から確認し合い、心身両面から利用者を尊重したサービス提供に努めている。玄関の施錠については、出入り口両側が交通量の多い道路路面に接しているため、安全面に配慮して、内側から開かないようにしている他、帰宅願望の強い利用者については、家族の同意を得た上で、日中も居室窓への施錠を行っている。	施錠を含め、やむを得ず身体拘束を行う場合に、その理由や方法等を記録に残し、家族から得た同意の内容についても記録に残してはどうか。また、今後、利用者の無断外出があった場合を考慮し、近隣住民から協力を得られるように、働きかけを行うことにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護福祉士・認知症ケア専門士の資格取得に向けた勉強会の中で、虐待防止について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士・認知症ケア専門士の資格取得に向けた勉強会の中で、権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険の更新により、介護度が変更となり、利用料金に増減が発生した時にも利用者や家族等に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の一日の様子を一行日記とし、家族通信として報告している。	利用者の暮らしぶりを知っていただくよう、「一行日記」を書き溜めて、毎月、家族に請求書等を送付する際に同封している。玄関に苦情・要望箱を設置している他、重要事項説明書へホーム内外の苦情相談窓口を明示し、ホーム内にも掲示している。また、出された意見等は都度対応策を話し合い、朝礼や申し送りノート等を活用して全職員で共有し、今後のサービス提供に反映させていく体制である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者・職員・ユニットそれぞれの会議を通して、意見を聞く機会を設け、対応している。	ユニット会議等を開き、意見交換の場を設けている他、業務の中で気づいた事があれば、その都度話し合ったり、朝礼時等に意見を出せる環境である。また、休暇や外部研修への参加等による職員不在時に、利用者へのサービス提供の滞りが生じないよう、派遣会社から毎回同じサポート社員を補充したり、ユニット間でのお手伝いがある以外、異動はほとんど行っていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士を招き、就業等について学ぶ機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加を積極的に働きかけ、受講に至っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みが行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談時には、管理者2名が訪問し、直接本人と話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談時には、管理者2名が訪問し、直接家族等の話を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療行為等が必要な場合には、体制の整っている施設への紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、洗濯物たたみ等、利用者から積極的に参加や協力をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が入居したことにより、安心した家族は、本人への思いが稀薄となり、共有に苦慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理棟職員の協力を得ながら、馴染みの場所等ヘドライブに行っている。	入居時の聞き取りや日々の会話の中から、馴染みの人や場所を把握している。外出の申し出があった際は、管理棟在籍の職員の協力を得ながら支援している他、電話のやりとりは子機を利用し、各自の居室で話ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌を唄ったり、体操・散歩等の活動で、利用者同士が楽しく関わりが持てるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先情報提供シートを届け、今までの生活の状況を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初より強く聞き込みせず、わかる範囲から、そして、日々の生活を通じてわかってきた範囲も含め、希望・意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で積極的に声がけし、利用者の表情・言葉の端々・しぐさ等から判断して、利用者の視点に立って、真意や要望を把握するように努めている。また、必要に応じて、家族・知人・医療関係者から再度情報収集を行ったり、利用者と1対1になる入浴介助等の時間を利用し、ゆっくりと話ができるように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活背景等のシートに家族に書き込みをしていただいている。また、生活しながら、小さな情報を集め、サービスに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化については、申し送りノートを活用し、休み明けの職員でも情報を共有できる体制である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や緊急ユニット会議、家族との協議の上で、介護計画を作成している。	日頃から、全職員の気づきを朝礼や申し送りノート等を活用して共有し合い、家族の意見や要望も取り入れながら、利用者本位の具体的な介護計画作成に取り組んでいる。また、実施期間を定め、必要に応じて随時見直しを行い、現状に即した支援ができるように検討し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・観察記録・センター方式D3(生活リズム・パターン)・D4(24時間生活変化)シートにて記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市外への受診の他、帰宅願望の強い場面では移送したり、外出支援に積極的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用する体制は整っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、内科より認知症の専門医の受診を支援している。	入居時にこれまでの受療状況を把握すると共に、今後の受診について話し合い、希望する医療機関への受診を支援している。定期受診以外の受診や他科受診が必要となった時は、随時家族に相談している他、必要に応じて家族にも受診に同行していただき、情報交換や話し合いができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師より、日々の様子・退院日等の情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、病院や他の施設に移っていただくことを、入居時に家族に説明している。	重度化や終末期の対応は困難であるため、常時医療行為が必要となった場合は、医療機関や対応可能な福祉施設へ移行することで了解を得ており、入居時に退居後の希望施設への申し込みをお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成しているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難路の確保等の設備点検を定期的に行っている。	年2回、消防署立ち会いの下で訓練を実施しており、助言や指導を受けている。防災設備関係は専門業者へ依頼し、定期的に点検している他、防災加工のカーテンを使用したり、緊急通報装置の設置や夜間緊急連絡網も掲示している。また、備蓄専用家屋にはレトルト食品・インスタント麺・米・飲料水・野菜類を準備している他、停電に備えて自家発電機や防寒対策用品も準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族への配慮を優先した場面では、言動を否定・拒否することもある。	基本的に名字に「さん」付けで呼びかけている他、本人や家族が希望する呼びかけにし、常に年長者に対して失礼のない対応を心がけている。日常における言葉遣いにおいても、不適切な発言があればその都度注意し、適切な対応ができるように努めている。また、各居室へは氏名を表示せず、ユニット(フラワー棟・フルーツ棟)に応じて、床面に花や果物の絵や名称を表示し、利用者のプライバシーにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な働きかけや場面づくりの支援ができていない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることが多く、後回しとなる場面が多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれよりも清潔を優先しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事後、後片付けを一緒に行っている。積極的にしている利用者もいる。	隣接する自家農園から収穫した旬の野菜や果物等を使用したり、季節感や彩りにも配慮した食事を提供している。また、一人ひとりの状況に応じて、粥食やとろみ等、食べやすいように工夫して提供している。利用者は無理のない範囲で、食事の下ごしらえ・後片付けを職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式D3(生活リズム・パターン)シートを活用し、水分摂取量等の把握に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや一緒に行う等して、歯磨き・入れ歯の手入れ、イソジン液でのうがいを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の声掛け誘導にて、失禁・失敗がないように支援している。	「トイレで排泄する」という意識が高く、利用者の意向を尊重し、昼夜を問わず、トイレでの排泄対応に努めている。排泄パターンを記録・把握しており、2時間毎の誘導を基本としている他、各自のパターンに合わせ、周囲に気づかれないように工夫して誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保(1,000ml)繊維値の多い食品摂取・近くの散歩・少し遠くへの散歩により、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々に応じた入浴の支援とはなっておらず、清潔保持を優先する場面もある。	入浴は週3回としているが、2ユニット間で入浴日が異なるため、日曜日以外は入浴が可能な体制である。利用者の心身状態等により入浴が困難な時は、無理に勧めず、一人ひとりに合わせた声掛けを工夫したり、手洗・足洗・清拭へと切り替える等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	苑外を散歩して外気を浴び、心地よく眠れるような支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理シートを作成し、在庫・薬の種類・医療機関を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・茶碗拭き・野菜類の下処理等、それぞれの場面で声掛けをし、手伝っていただいているが、利用者自ら積極的に行っていただく場面もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ほぼ毎日遠出の散歩に出掛けている。	ホームを一周できる遊歩道が整備され、また、自家農園も隣接していることから、天気の良い日には周辺の散歩を楽しんでいる。さくらんぼ狩り等の行事の際は、他事業所からマイクロバスを借り、事前にトイレや休憩場所等も確認の上、身体的負担にも配慮した外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より来た電話は子機を本人の手元まで持ち運び、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホール窓より、季節毎の花・畑作物が眺められ、ゆったりと過ごしている。	床暖房やエアコン等を使用し、季節に合わせ、快適な空調となるように管理している 他、カーテンや照明により、室内の明るさを調節している。また、テレビや音楽の音量も適切に調整し、共有空間の調度品も木目調で家庭的な物を使用する等、利用者が心身共に居心地良く過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内でのソファを一人掛け・二人掛け・三人掛け等に配置している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居が決まった時に、好みの物等を持ってきていただくよう、働きかけを行っている。	馴れ親しんだ身の周りの品を持ち込んでいただくよう働きかけを行っている。また、その時々利用者の意向を聞き取り、行事写真や一緒に手づくりした作品等を飾り付け、居心地が良く、心穏やかに過ごせるような居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面にトイレ・各居室等の表示をしている。また、トイレは目の高さへの明示も行っている。		